

## 第2回男鹿市地域公共交通活性化協議会会議録

日時： 令和8年1月14日 15時30分

場所： 男鹿市役所5階 大会議室

第2回男鹿市地域公共交通活性化協議会

令和8年1月14日 15時30分

出席委員（17人）

1号委員 平 太志

4号委員 高橋 麻衣子 金沢 勝義 浮田 忠勝 敦賀 文雄 平賀 信一  
三浦 達也

5号委員 秋山 順藏 高野 進 高桑 和雄 村井 一仁 高橋 郁雄  
松井 等 關 耕造 江畠 昭光 西方 茜

6号委員 日野 智

代理出席（3人）

（委員名） （代理名）

2号委員 山平 路春 山木 將弘

3号委員 高橋 寿 斎藤 健太

4号委員 玉尾 毅 若松 伸吾

欠席委員（5人）

4号委員 小林 武彦 小西 司

5号委員 敦賀 強

7号委員 佐藤 博 三浦 昇

出席事務局職員

企画政策課長 高桑 淳

企画政策課 斎藤 廣俊

企画政策課 犬元 巧陽

令和7年度第2回

## 男鹿市地域公共交通活性化協議会総会

日時 令和8年1月14日（水）  
15時30分より  
場所 男鹿市役所5階 大会議室

次 第

### 1. 開 会

### 2. 議 事

(1) 議事録署名委員の選任について

(2) 令和7年度地域公共交通確保維持改善事業の評価について  
(資料1)

### 3. 報 告 (資料2)

(1) バス停の更新について

(2) バス停の移設について

(3) 新たな公共交通の確保事業における実施状況について

(4) 男鹿北線予備車両の減車について

### 4. その他

(1) 今後のスケジュールについて

### 5. 閉 会

(15時30分開会)

○ 事務局（高桑）

ただいまから、令和7年度、第2回男鹿市地域公共交通活性化協議会総会を開催いたします。開会にあたりまして、資料のご確認をお願いいたします。担当から確認させます。

○ 事務局（狩元）

本日お手元には、次第、委員名簿、議案資料1、報告資料2を配布しております。内容につきましては議事の中で改めてご説明いたします。落丁等ございましたら、お申し出ください。

○ 事務局（高桑）

それでは、次第により進めさせていただきます。ここからの議事進行につきましては、会議規則により、日野会長よりお願ひいたします。

○ 日野会長

それでは、議事を進めてまいります。まず、議事(1)でございます。協議会規約の規定により、2名の議事録署名委員を選任することとなっております。選任方法について、いかがいたしましょうか。特に無いようであれば、事務局から案などござりますか。

○ 事務局（高桑）

それでは、事務局からご提案申し上げます。秋田中央トランスポートの金沢委員と五里合振興会の村井委員を推薦したいと思います。

○ 日野会長

事務局より金沢委員と村井委員を推薦する声がございましたので、ここでお諮りいたします。両名を議事録署名委員とすることにご異議ございませんか。

～異議なしの声～

○ 日野会長

異議がないようですので、議事録署名委員は、金沢委員と村井委員に決定いたしました。よろしくお願ひいたします。

○ 日野会長

次に、議事の(2)、「令和7年度地域公共交通確保維持改善事業の評価について」に移ります。事務局から説明願います。

## ○ 事務局（狩元）

資料1に沿って説明いたします。令和7年度の地域公共交通確保維持改善事業の事業評価についてご説明させて頂きます。男鹿市の公共交通は、国の補助を受けており、その補助制度の基準に基づき、自己評価を行うことが定められています。

今回自己評価の対象となる路線については、令和6年10月1日から令和7年9月30日までの期間中に、国の補助を活用した男鹿北線、船越線、男鹿南線、五里合線、潟西線の5系統がフィーダー系統として評価の対象となります。6月の総会でも質問がありましたので、ここで改めてフィーダー系統について説明しますと、JR男鹿線を幹線として、男鹿市内の各駅に立ち寄る、支線の役割を持つバス路線をフィーダー系統と呼んでおります。さらに資料1についてですが、こちらは国から示された様式に合わせて作成しております。先日送付した内容から8ページ目以降の部分について修正を行ったことをお伝えいたします。

それでは、各路線の評価についてご説明いたします。8ページをご覧ください。男鹿北線は、JR男鹿駅を出発し、羽立駅前や北浦地区、温泉郷を経由して、男鹿水族館に向かう路線です。令和7年度は、前年度に引き続き、あじさいの季節である6月と7月に観光利用を促進するため、土日祝日の運休便の一部の便を運行しました。この取組により、利便性の向上が図られ、目標値に対して107.6%の達成となりました。

次に船越線は、JR船越駅からJR脇本駅を経由し、みなと市民病院に向かう路線です。この路線では、JR男鹿線や接続する路線バスとの円滑な乗り継ぎを維持するため、ダイヤ編成を工夫しました。さらに、元々船越方面からJRを利用して船川まで来ていた高校生が、路線バスを利用し始めたことによって利用者数が増加し、目標に対して123.5%達成となりました。

9ページをご覧ください。男鹿南線は、JR男鹿駅を出発し、門前地区まで向かう路線です。地元住民に加え、観光客にも多く利用されていますが、令和7年2月からスーパーのドジャースが水曜日休業となったことや、高校生の利用者の減少が影響し、目標値に対して97.4%の達成となりました。

次に五里合線は、男鹿梨で有名な中石からJR脇本駅前を経由し、みなと市民病院まで向かう路線です。残念ながら、目標値に対して72.9%の達成にとどまりました。減少の要因としては、脇本地区内で経路が一部重複している「おがぐる」への利用移行が挙げられます。また、他系統と比較して、観光客や学生の利用が少ないことも影響しています。今後は、大型商業施設への路線バスの乗入を可能とするなど、利用促進を図っていきたいと考えております。

次に潟西線は、三種町と隣接する若美野石地域からJR船越駅まで向かう路線です。

今年度 4 月に、スーパーセンターアマノやなまはげモールへの路線延伸を行ったことにより、利用者数が増加しました。その結果、目標に対して 125.2%と目標を達成した路線となります。

全体として、目標値に対して 100%以上達成した路線は 3 路線でしたが、全体の利用者数は、前年比で 3.8%アップという結果になっています。JR 男鹿線と接続する路線バスとの円滑な乗継ぎを維持しつつ、観光利用も視野に入れたダイヤ編成や、バス路線の PR を行うことで、引き続き利用促進を図りたいと考えております。

○ 日野会長

ただいま、事務局から説明がありましたが、ご質問やご意見はございませんでしょうか。

○ 日野会長

私から確認です。C 評価であった五里合線について、利用者数が減少した理由としておがぐるに移行したとありますが、そのように判断した理由はアンケート調査や集計データによる結果でしょうか。

○ 事務局（狩元）

集計データを基に判断しております。五里合線の脇本駅止分とおがぐるの脇本船越循環線は経路が重複していることから、それぞれの利用者実績を比較したところ、おがぐるの増加数と五里合線の減少数がおおよそ同数であることから移行したものと考えております。

○ 日野会長

五里合線からおがぐるへ利用が移行した理由はありますか。例えば本数を増やすなどの何か変更した点はありますか。

○ 事務局（齊藤）

運行本数やダイヤ等の変更は行っておりません。

○ 日野会長

そうすると、おがぐるが認知された結果、より便利なおがぐるに利用が移ったという考え方でよろしいですか。

○ 事務局（高桑）

五里合線は 1 日当たり 6 便、おがぐるは 1 日あたり 8 便とおがぐるの方が 1 日あたりの便数は多くなっております。おがぐるについては、もともと買い物利用を想定して運行を開始し、令和 5 年度から土日の運行もするようになり、利便性が上がりました。脇本駅前から本村地区で五里合線の経路と重複しておりますが、おがぐるは車両が小型で

利用し易いため、利用が移ったと考えております。

○ 日野会長

そういう意味であれば、おがぐるは今回の評価対象ではありませんので、五里合線の減少となっておりますが、男鹿市全体の利用として見れば、利用者が利用する路線を変更したものと捉えてよろしいですか。

○ 事務局（高桑）

令和5年度と令和6年度の利用者数を比較しますと5,000人の増加しております。また令和6年度と令和7年度のそれぞれ10月末時点の利用者数を比較しますと、ほぼ横ばいとなっております。このことから、男鹿市内全体で見ると路線バスの利用については、利用者が利用する路線を変更したものと考えております。

○ 日野会長

はい。ありがとうございます。他に何かご意見やご質問はありますか。

○ 秋田県観光文化スポーツ部交通政策課 山木氏

事務局からの説明の中で、観光目的の利用が増加したとありましたが、アンケートや観光施設への聞き取りにより調査し、判断したものになりますか。

○ 事務局（狩元）

男鹿北線については実績から判断しており、6月7月のあじさい時期に、通常運休である土日祝日の一部の便を運行したことにより利用者数が増加しているため、観光目的の利用が増加したと判断しております。それ以外の路線については、運行事業者への聞き取りによるもので、具体的な数値による判断ではありませんが、観光客がよく乗り降りするバス停の利用状況から判断しております。

○ 秋田県観光文化スポーツ部交通政策課 山木氏

観光利用の関係ですと、他市町村では観光利用に合わせたダイヤ編成等を行っている事例もありますが、男鹿市の場合は観光利用に合わせたダイヤ編成や便数の増加等の今後の改善は考えておりますか。

○ 事務局（齊藤）

基本的には、観光はJRを利用される方が主眼になると考えております。そのため、JRに接続する路線は、JRの発着に合わせたダイヤ編成を行っております。また観光利用については、二次交通と連携し今後の交通の在り方を検討していきたいと考えております。

○ 日野会長

他に何かご意見やご質問はありますか。

○ 浮田産業交通 浮田氏

男鹿北線について、病院利用が減ってきていため減少しているように見受けられますが、一方であじさい時期に一つ増やしている便について利用者数を教えてください。また、今回の熊騒動により利用者数が減ってきていたため、こちらの対策についてありましたら教えてください。

○ 事務局（齊藤）

あじさい時期に増やしている便の利用者数については、現在持ち合わせておりませんので、次回開催時にお伝えさせていただければと思います。また熊対策については、果樹の伐採に対する補助等を農林水産課で対応しております。

○ 日野会長

議題と直接関係ないかもしれません、熊出没があった今年度11月頃の利用者数は、例年と比較して影響はありましたか。

○ 事務局（狩元）

市内を運行している全11路線を対象に11月、12月の2か月間の実績で昨年度と比較しますと、前年比で700人程度の減少となっております。

○ 日野会長

そうなると、必ずしも熊の影響とは言えないかもしれません、少なからず影響があると考えられますので、安心して乗り降りできる対策があれば良いと思います。

○ 事務局（高桑）

先ほどの男鹿北線のあじさい時期に合わせた6月7月の追加便についてですが、209人の実績となっております。

○ 日野会長

はい。ありがとうございます。他に何かご意見やご質問はありますか。

○ 脇本振興会 会長 高橋氏

マックスバリュ前のバス停について、もともと県道沿いにあったバス停を店舗前に移設したことで、利用客や脇本地区の民生委員から褒められた経緯がありましたので、皆さんに報告させていただきます。

○ 日野会長

はい。ありがとうございます。事務局から何かありますか。

○ 事務局（高桑）

お話をありましたとおり、昨年の10月から、県道沿いにありましたバス停を店舗前に

移設しました。マックスバリュさんからは、駐車場内のバス経路を標示する塗装や、バス停脇にベンチを設置してもらうなど、ご協力をいただきましたのでお知らせさせていただきます。引き続き、市内路線バスの利便性を高める取り組みを行っていきたいと考えておりますので、お気づきの点などありましたらご提案いただければと思います。

○ 日野会長

はい。ありがとうございます。他に何かご意見やご質問はありますか。

○ 秋田県観光文化スポーツ部交通政策課 山木氏

大型商業施設への乗入について、五里合線の事業の改善点として挙げられておりますが、これはマックスバリュのバス停以外でも乗入を行うということでしょうか。

○ 事務局（高桑）

船越地区には大型商業施設がスーパーセンターアマノとイトクショッピングセンターの2店舗ありますが、こちらはおがぐるを運行する際に、それぞれの店舗前にバス停を設置して運行を始めたという経緯があります。また潟西線では、以前までは船越駅で経路が終了しておりましたが、昨年の4月からアマノやイトクまで延伸し、買い物の利便性を高めております。他の大型商業施設となりますと、船川のドジャースになりますが、こちらは県道沿いにありまして、すぐそばにバス停がございますので、現状ではこれ以上の大型商業施設への移設はないと考えております。

○ 日野会長

そのほかご質問ご意見等ありましたらお願ひします。

○ 日野会長

それでは、本件についてお諮りいたします。本案にご異議ございませんか。

～異議なしの声～

○ 日野会長

ご異議がないようですので、「令和7年度地域公共交通確保維持改善事業の評価について」は本案のとおり承認されました。

○ 日野会長

次に進みまして、次第の3、報告に移ります。(1)～(4)の4点について、事務局から説明願います。

○ 事務局（狩元）

資料2に沿って説明いたします。はじめに報告(1)バス停の更新について説明いたします。市内には381基のバス停があり、うち表示面の更新が必要なバス停留所は

378 基です。令和 5 年度にバス停留所表示板の更新を 219 基実施し、残りの 159 基を今年度実施しました。これにより、市内のバス停留所表示板は、すべて更新しました。

続きまして、報告(2)バス停の移設について説明いたします。令和 7 年 10 月 1 日に、「中石停留所」及び「マックスバリュ前」停留所の移設を行いました。特にマックスバリュ前は、県道から店舗前に移設し、買い物の利便性や待合環境が格段に向上了しました。これにより、「マックスバリュ前」の利用者からは、以前のバス停留所では買い物後に荷物を持ってバス停まで向かうことが大変だったという声があり、現在の位置まで移設したことをありがたいと感じている意見が寄せられております。また、マックスバリュ側からは、駐車場内の路面標示やベンチの設置などのご協力をいただきました。今後も、市民からの意見受けて、都度状況を判断し、適切に検討していきたいと考えております。

続きまして、報告(3)新たな生活交通の確保事業における実施状況について説明いたします。はじめに、地域で考える公共ライドシェア導入事業についてご説明いたします。この事業は、男鹿中地区を対象に、公共ライドシェアの仕組みを導入するための準備を進めているものです。地域住民を対象としたアンケート調査やセミナーを実施し、住民の理解を深めるための取組を行っております。さらに、来週 1 月 21 日にはワークショップを開催予定で、地域住民の意見を伺いながら、将来の交通の在り方について話し合いを行います。また、アンケートの速報結果に基づき、買い物先や通院曜日などの住民の行動傾向を把握し、運転手の意向調査も実施しました。その結果、運転手を「やってみたい」と回答した割合が約 2 % にとどまっており、今後の運転手の確保が課題となっております。

次に、乗合タクシー実証運行事業についてご説明いたします。この事業は、船川の高台地区等にお住まいの方を対象としたものです。対象地域の住民との意見交換会や説明会で出た意見を踏まえて、令和 7 年 11 月 17 日より実証運行を開始し、令和 8 年 1 月 16 日に実証を終了する予定です。11 月中はお試し期間として無料で運行し、12 月より片道 500 円で運行しております。実績についてですが、当初の積算では対象地域の 75 歳以上の人口数から、1 日あたり約 19 人の利用を見込んでおりましたが、12 月末時点での集計結果は、合計 68 人、1 日あたり平均 2.34 人と、想定を下回る状況となっております。乗合タクシーの利用促進を図るため、対象地域の住民に向けて、広報 1 月号に利用者の声を盛り込んだチラシを折り込み、周知を進めております。

最後に、自動運転バスについてです。昨年 10 月 4 日、5 日に男鹿駅前広場で自動運転バスの有人運転による試乗体験イベントを行いました。両日で試乗した人数は 584 名となり、試乗後に導入意向についてアンケートを実施したところ、「導入してほしい」と回答した割合が 93% に達しました。また運行場所の候補として、「商店街

や中心市街地」を選んだ方が 59.5%を占め、自動運転バス導入への関心の高さを確認できました。

最後に、報告(4)男鹿北線予備車両の減車について説明いたします。浮田産業交通が保有する車両について、車両の経年劣化による修繕が大幅に増加していることから、令和 8 年 1 月 5 日付けで減車を行ったとの報告をいただいております。なお、男鹿北線車両については、予備車両含めて 4 台体制で運行しているため、今後の運行に支障はないとされています。

○ 日野会長

ただいま、事務局から説明がありましたが、質問や意見はございませんでしょうか。

○ 浮田産業交通 浮田氏

船川の高台地区の乗合タクシーについて、地域住民にとってはすごく良いことだとは思いますが、他の民間タクシー会社とのバランスにも十分ご配慮してほしいと思います。

○ 事務局（齊藤）

取組を実施する際は、交通事業者への説明を十分に行って実施したいと考えておりますので、引き続きご協力をお願いいたします。

○ 事務局（高桑）

新たな形で事業を実施しておりますが、将来に繋がる持続可能な形で取り組みたいと考えておりますので、今後ともご理解とご提言をいただければと思います。

○ 日野会長

他に、質問や意見はございませんでしょうか。

○ 日野会長

無いようですので、次に今後のスケジュールについて事務局から説明願います。

○ 事務局（狩元）

お忙しいところ大変恐縮ですが、来月、再度協議会を開催する予定です。次回の協議会では、来年度の公共交通に関する取組についてご協議いただきたいと考えております。また、本日ご報告した公共ライドシェアや乗合タクシーの実績についても、改めて報告させていただく予定です。詳細については、後日お知らせいたしますのでよろしくお願いいいたします。

○ 日野会長

ただいま、事務局から説明がありましたが、質問や意見はございませんでしょうか。

○ 日野会長

予定された議事は終了いたしましたが、せっかくの機会ですので、公共交通に関して何かご質問やご意見はございませんか。

○ 日野会長

それでは一つ伺いますが、来週、公共ライドシェアのワークショップが予定されておりますが、現時点での名前での参加予定になっております。

○ 事務局（齊藤）

参加者については、男鹿中コミュニティセンターで取りまとめておりますが、今このところ 20 名～30 名の参加を見込んでおります。

○ 日野会長

わかりました。ありがとうございます。

○ 日野会長

それでは、以上をもちまして、本日の議事日程を終了いたします。委員の皆さんにおかれましては、円滑な進行に御協力くださいまして、ありがとうございました。

終了時間：16 時 10 分